

～ともに助け合うまちづくり～  
障がい者に分かりやすい広報の作成に向けて話し合いました

日時：平成23年2月2日（水）13：30～15：35

場所：区在宅サービスセンターゆうあい 2階 多目的ルーム

### 1. 相談窓口が分かるシンプルな広報の作成について

昨年度、障がい当事者を対象に生活するうえでの困りごとや災害時における不安などについてアンケートを実施し、230名から回答を得ました。

今年度は、身体・精神・知的障がいの分野別に回答を集計し、グループワークにより解決策について意見交換を重ね、整理された課題は以下の3点でした。（詳しくは、平成22年度第1～4回障がい班報告をご覧ください）

- ①相談窓口がわかるシンプルな広報
- ②地域で障がいについて理解を深める勉強会の実施
- ③障がいのある方、そのご家族を支えるボランティアの育成

まず、①の広報から取組みを進めることになりました。事前に事務局が、区内障がい者施設の職員の方々や障がい当事者にヒアリングを行い、どんな広報が必要か情報収集を行いました。その結果をもとにグループで話し合った結果、次のような意見が挙がりました。

#### 意見

- ・区保健福祉センターと区社協の連絡先だけ掲載したものが一番シンプルではないか。どちらかに連絡さえすれば、いろんなサービスにつながるのでは。
- ・今サービスにつながっていない方にどう情報を伝えるか、チラシ作成をしてどこに配るか検討していくことも必要。
- ・サービスを利用することで、人とのつながりができたり、生活がしやすくなったなど、興味を持ってもらえそうな障がい関係の事例を社協だより「ゆうあい」に掲載してはどうか。
- ・地域のふれあい喫茶の広報について、障がい者や子どものイラストを加えた方が障がいの有無や年代に関係なく参加できることがわかりやすいのでは。また、地域に住んでいる人となっているので、在勤の方も参加できることも加えた方がいいのでは。

**まとめ** これらの意見を踏まえ、作成に向け、取組みを進めていきます。

### 2. 安心安全カードについて

高齢班で作成した安心安全カードを災害時の要援護者支援のために障がいのある方にも配布してはどうかという提案があり、それについて事務局が、区内障がい者施設の職員の方々や障がい当事者にその必要性やどんなものが使いや

すいか等についてヒアリングを行いました。そのヒアリングの結果、現行のものは、8面もあり書く項目が多く、ルビも打っていないため、障がいのある方にも使いやすい2面ほどの簡易用安心安全カードを作ってはどうかという意見が出ました。

その提案を受け、議論した結果、当面は作り直さず現行のものの普及に力を入れることになりました。8面あるうち、記入できる部分のみ記入してもらうことを検討し、ルビを打つ必要がある方にはルビを打ち記入支援をすることになりました。今後、現行のものの普及を進める中で、障がい当事者の意見を集約し、改善が必要かも含めて検討していきます。

### 3. ボッチャ大会について

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

天王寺区地域福祉アクションプラン障がい班では、地域と障がい当事者のつながりづくりを目的として、天王寺区身体障害者団体協議会と連携し各地域の取り組みを支援しています。

3月5日（土）に、9時30分から区民センターで障がい当事者と地域の方との交流促進のため、地域活動に関わっている未来わがまち会議委員とアクションプラン推進委員、天王寺区ジュニアクラブの参加によりボッチャ大会を開催することが決定しました。障がい当事者には、現在大阪府家内労働センター連合授産場に参加の依頼をしています。参加できる障がい班員の方々に運営の手伝いや見学、審判の協力をいただく予定です。